

～滝上高校の軌跡～

今回は、滝上高校教頭の小田島数幸さんに思いを綴って頂きます。

この号が発行されるのは卒業式のシーズンと、うかがっています。立派に成長して学舎を巣立つ教え子たちの姿に、私たちは涙があふれ出ることが何度もあります。世の中にはたくさんさんの職業がありますが、働きながら泣いてしまう場面があるこの教職を、私はとても幸せに感じています。

滝上高校に着任した私は卒業式でもないのに、この一年で二度も泣かされてしまいました。三〇年余の教員生活でも、なかなかないことです。最初は、今夏の学校祭で、虹の橋広場でのよさこい演舞の時でした。辛くても投げ出すことなく、ようやくこの日を迎えた生徒の満足した姿に、人目もはばからず感動していました。二度目は、九月のふるさとまつりで、商工会議所からのお誘いを受け、この時もまた、生徒がよさこいを披露した時でした。町民

の皆さまからの温かい手拍子を頂戴し、生徒たちの晴れ晴れとした表情を見ながら、この手拍子がそのまま滝上高校への応援と感じ、こみ上げてくるものがありました。



～よさこいの演舞披露の様子～

この春卒業する三年生は、在籍わずか十四名です。元オリンピック選手の大高友美教諭から情熱と愛情を注がれ、育てられました。

彼ら十四名が二年生の時、見学旅行へ一緒に行きました。四泊五日、京都中心の関西方面です。そのうち三連泊した京都の旅館は、古くて小さな外観の建物でしたが、おもてなしの心がとても込められています。アイドルグループ嵐の大野クン

や松潤が、お忍びで利用していた旅館との理由もわかりました。旅館側の思いを感じとった彼らは、全ての食事を完食して応えました。もちろん、女子生徒も。何とも気持ちのいい集団です。女将からたくさんさんの感謝の言葉があったことは言うまでもありません。

彼らが一年生の時、本校の募集停止が決まりました。大人が想像するよりはるかに深い動揺があったはずですが、でも、入学してから一人も欠けることなくここまで来ました。仲間に支えられながら困難を乗り越え、こうして卒業の日を迎えます。私はまた涙が出るかもしれません。少ない人数の滝上高校ですが、町の広報や地元の新聞社はもちろん、テレビ局やラジオ番組が、生徒たちの頑張っている様子を数多く伝えてくれるようになりました。これからも、活動の様子をたくさん発信していきますので、ぜひお楽しみください。